

# 2019年 アスパラガス施肥基準・病害虫防除暦の改正点とポイント

## 【施肥基準】

- 「有機ハツラツ A」は、今までの「新有機ハツラツ」に微量元素を加えた有機 50%入り総合土づくり肥料。有機物の補給、土壌物理性の改良と低コスト化を図った肥料。  
(成分 N2.0%、P2.0%、アルカリ分 10.5%、Mg5%、Mn0.4%、B0.2%)。
- 「アスパラによきによき」は、従来の「スーパーによきによき」を改良し、夏場の追肥を軽減できる県下統一の銘柄。低コスト化と生産の安定を図った省力的な肥料。  
(成分 N18.0%、P8.5%、K8.0%、苦土 2.5%)
- 「亜リン酸粒状 1号」は根量の増加、生育促進、土壌病害の抑制効果がある。10a 当り 10~20 kgを土寄せ（盛土）時に施用する。また、改植では「亜リン酸粒状 1号」を、10a 当り 20 kgを植え位置中心に散布する。土壌病害である「疫病」に対し抑制効果が期待できる。(成分 P7.0%、K5.0%)
- アヅミン苦土石灰に代えて肥効とコストから炭苦土（粒）タイニーに変更。
- 追肥には肥料による根やけを回避するため、「尿素」から「追肥グリーン 2号」に変更。生育向上による同化養分の増加を考慮し成分量を若干減らしている。

## 【雑草防除基準及び除草剤使用基準】

### < 除草剤使用基準 >

- 「ロロックス」の登録内容変更に伴い、打ち切り後の畝間散布にロロックスを追加。

## 【病害虫防除暦】

### < 共通事項 >

- 防除暦は露地作型とハウス作型の 2 種類。
- 養分転流の促進効果と次年度への増収効果が期待できる葉面散布資材「PK ゴー」を 9 月以降の農薬散布に混用する事を前提に葉害回避のため「ic ボルドー 66D」から各種殺菌剤に変更。(H30 より継続)
- 農薬付着量向上のため、展着剤（ハイテンパワー）の希釈倍率を 5,000 倍に変更。
- 近年被害が増加している「疫病」対策として特別散布を 7 月下旬の下に追加。
- 茎枯病対策には立茎開始～ 4 回目までの散布が特に重要となる。
- 土壌病害（疫病）の発生が心配される場合は、特別散布として春どりのみ場合は「フォリオゴールド」1,000 倍液、夏秋どりの場合は「プロポーズ顆粒水和剤」1,500 倍液を散布する。
- 斑点病対策の強化として、感染初期と考えられる 8 月下旬に「アミスター 20 フロアブル」9 月上旬に「ダコニール 1000」を採用。また、早期発病に備えて特別散布の散布時期を繰り上げた。
- 9 月散布の注意事項に、コスト面及び効果面から葉面散布剤の「メリット赤」に代えて、「PK ゴー」を昨年から採用した。「PK ゴー」は亜リン酸資材で、養分転流の促進効果と次年度への増収効果が期待できる。9 月以降の薬剤散布と併せて 3,000 倍液で散布する。但し展着剤は必要。  
また、使用上の注意点として
  - ① ic ボルドー 66D 等の銅剤との混用は葉害の恐れがあるため、使用しない。
  - ② 「PK ゴー」と薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。  
(成分 N0%、P56%、K37%)
- 散布間隔があく場合や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、「コサイド 3000」の 2,000 倍液を散布する。